



AFFILIATED WITH THE INTERNATIONAL ASSOCIATION OF Y'S MEN'S CLUBS

THE Y'S MEN'S CLUB OF K O B E

THE SERVICE CLUB OF THE YMCA

CHARTERED FEBRUARY 17 · 1930



- ブラザークラブ：高雄（台湾） チェンマイ（タイ） 米子（西日本区）
- 国際会長主題：世を照らす光となろうー恵みを愛もて分かち合おう
- アジア会長主題：歳月はY'sをワイズ（賢者）にするー行動が活力を呼び覚ます
- 西日本区理事主題：先頭に立ってワイズの光を輝かそう、クラブで、地域で、国際社会で
- 六甲部部長主題：柔軟な創造で愚直に積極的なワイズライフを楽しもう
- クラブ会長主題：クラブの伝統を踏まえ、クラブの新しい「顔」を作るべく、それぞれの役割を楽しもう

2012年9月

Menettes 強調月間

今月の聖句

「預言者が敬われないのは、自分の故郷、親戚や家族の間だけである」

マルコによる福音書6章4節

9月11日第1例会

開会点鐘 18時30分 長内 靖子メット会長

ワイズメネットソング

聖句朗読・開会祈祷

〔プログラム〕

講演

「描き続けて45年・・・芸術で何ができるか」

日本画家 志村 正氏

報告および事務連絡など

ハッピーバースデー

閉会点鐘 20時30分 長内 靖子メット会長

9月誕生日おめでとう

1日 山本 亮司 25日 名田 敦子

8日 城 邦子 25日 橋本 正晴

13日 橋本 和子 27日 大塚 章信

23日 長内 靖子

8月在籍者

8月出席者

8月出席率

21名	メン 12名	57%
広義会員	メネット 7名	(含メイキャップ)
0名	コメット 0名	前月出席率
合計 21名	ゲスト 22名	67%
	合計 41名	

8月分BFポイント

切手 0円 現金 0円

本年度累計

切手 0円 現金 0円

9月25日(火)第2例会 19:00～

◎年間計画の詳細について

◎各事業計画について

◎その他、協議事項、事務連絡など

第2例会でも、重要な議題を協議し決めてゆきます。都合をつけて出席をお願いします。

会長 進藤啓介

副会長 尾上尚司

会計 森 章一

書記 山本亮司

連絡主事 山本亮司

口座番号 三井住友銀行三宮支店 普通預金No. 1494643 名義人 神戸ワイズメンズクラブ 会計 橋本正晴

例会：第1例会 毎月第2火曜日 18:30 第2例会 毎月第4火曜日 19:00

会長メッセージ

『クラブファンド』

会長 進藤 啓介

新年度が始まり、神戸クラブは7月に「ふくしま・神戸子供プログラム」に、また8月は、「ルワンダの教育を考える会」理事長マリルイズさんによる「平和を作り出す集会・子供たちの未来の為に」と題しての講演会を神戸YMCAと共催いたしました。8月例会はEMCを主題として六甲部のメンバーと共に拡大例会（研鑽会）を持つことができました。コツコツとできることをやっていきたいと思えます。今後は、YMCAのバザー、チャリティラン、又主事との意見交換会による今後のYMCAを考える勉強会、東北震災支援チームとの協働活動、地域に於ける奉仕活動・・・etc を実行していきたいと思えます。未だすべての活動が決まっているわけではありませんが、こういった活動を通じて今後の神戸の「新しい顔」も見えてくるのではないのでしょうか。その結果、この活動に共鳴してくれるメンバーが増え、クラブの拡大にも通じ、ますます活

動が盛んになってほしいと思えます。

私は、今年、上記の目標の実現に向けてクラブファンド活動に携わりたいと思えます。クラブファンドが盛んであれば、神戸クラブの活動も盛んにすることが出来る可能性が広がるわけです。

去年は、ジャガイモ、リンゴ、山椒チリメン等の販売でたくさんの方にお世話になりました。メネット独自のファンド活動もありました。その中で、今年は一と月早めて9月に「ジャガイモファンド」が始まりませんが、今までにも増して皆様のご協力をいただきたいと思います。又、ジャガイモにしろ、リンゴにしろ、その販売量の拡大に向けアイデアがあれば、是非ご提案ください。それぞれが出来るところで、できることをコツコツとやっていきたいものです。

是非、皆でクラブファンドを盛んにしましょう。

クラブこれからの予定

- 9月 8日 六甲部会
- 9月29、30日 ジャガイモファンド
- 10月7、8日 米子クラブDBC交流会
- 10月21日 三宮YMCA国際バザー
- 11月 3日 チャリティラン
- 11月11日 世界YMCA、YWCA合同祈祷週
- 1月12日 新春YYフォーラム



8月第1例会 ワークに取り組む

<今月の聖句に添えて>

イエスは時には故郷の村、ナザレに帰られることがあった。家には母マリアはじめ兄弟姉妹がいる。それを聞いた近所の人々もやって来る。でも、ナザレでは皆がイエスの幼少年時代をよく知っているのだから、この人が特別な人だとは誰も思わない。だからイエスは故郷ナザレではあまり多くの働きや癒しの業はなさらなかった。牧師として生まれ育った教会に派遣された時、私も同じような思いをしたのを覚えている。

(山根貞夫司祭@神愛修女会・深和ホーム)

8月第一例会報告（EMC研修会）

鵜丹谷 剛

8月度の例会は、今年度EMC事業主任の米村謙一ワイズ（熊本むさし）をゲストとしてお招きして、（恐らく）神戸クラブとしては初の『EMC研修会』を執り行いました。

本例会は六甲部の研修会としての併催企画でもありましたので、六甲部キャビネットの皆様を始め、六甲部各クラブからも多くのメンバーにご参加頂き、総勢35名の例会となりました。

クラブのメンバー増強、若返りは六甲部のいずれのクラブにおいても、重要かつ急務な必須課題であり、EMCといえば新規メンバー獲得という事ばかりがクローズアップされがちではありますが、今回は米村事業主任の方針を踏まえ、まずはメンバー獲得の前に、EMCの"C"（Conservation）=健全なクラブの維持の重要性にフォーカスを当てた研修会を行いました。

米村事業主任より、EMCの取組みに対する考え方、特にクラブの存続や会員増強を行う上で、健全なクラブの運営がなぜ必要なのか？という事をご説明いただきました。そして、引き続き、米村事業主任が考案されたクラブの自己診断プログラムを行いました。各クラブのメンバー毎に分かれ、様々な観点から捉えたクラブ活動や運営に対する設問項目に各自評価を行い、それをクラブ毎に集計して一つのレーダーチャートにまとめ、それぞれが思うクラブの良い点や改善すべき点などをディスカッションしました。

一見小難しそうに見えるプログラムですが、これが実に中々面白いプログラムで、中には子供さながらにゲーム感覚で楽しそうにワイワイ言いながら行うメンバーも居り、研修会とは名ばかりの実に楽しい企画でした。クラブによって参考すべき良い点など、それぞれ差異などもあり、クラブの特徴や傾向が見られる事も中々面白い点でした。総じて言えば六甲部のいずれのクラブも人材育成についての取組みが弱い傾向にあるようにも見受けられた事は、六甲部のEMC事業における今後取組みのヒントの一つかもしれません。

今回の例会を終え思う事は、クラブのメンバー同士で、自クラブの事について、良いことや改善すべき点などを論じ合う場面が実はかなり少なかったのだなと認識したこと、そして、こういった時間を例会として作る事の重要性を感

じた事でした。いよいよ神戸クラブもこれからメンバー増強など真剣に取り組む前に立ち、今回の例会は実に意味あるものだったと思いました。

平和を創り出す集会 ～子どもたちの未来のために～

森 愛子

8月20日（月）、神戸YMCAでルワンダのキャンベルガ・マリールイズさんの講演があった。「平和を創り出す集会～子どもたちの未来のために～」が講演題だった。「平和を創り出す集会」の文字が目に入り、今年のミッション委員会の講演会企画に何か参考になるかも知れないと思い参加した。マリールイズさんはパワーポイントで説明を加えながら流暢な日本語で語り始めた。

ルワンダはアフリカの真ん中にある小さな小さな国だ。よくウガンダと間違われるという。面積は日本の福島県の約2倍だという。人口は約1105万人。赤道に近いが標高が高いのでとても涼しく、一年中適温だそう。1889年にドイツ植民地からベルギーの植民地になり、1962年にベルギーから独立した。しかし、1994年4月にハビヤリマナ大統領暗殺事件が発生し、歴史上に残るルワンダ大虐殺内戦が興った。この時、わずか3カ月の間に50万人とも100万人ともいわれる人々が虐殺され、多くの子どもたちも犠牲になった。

マリールイズさんは1993年に青年海外協力隊の協力隊員として来日し、福島市で洋裁の研修を受け、翌年（1994年）2月にいったん帰国した。この時、内戦に巻き込まれ、家族共々隣国コンゴの難民キャンプにいたが、そこで活動していた日本人医師と出会い、彼の通訳となり、幸運にも家族共々日本に逃れることが出来た。そして子どもたちは日本で教育を受けた。その教育のおかげで子どもたちはそれぞれ自立した生活を送っている。この経験から教育の大切さを痛感し、未だに教育を充分受けられないルワンダの子どもたちのために学校建設を始める。と共に内戦の辛く悲しい思いを踏まえ、日本の各地で命、平和。教育の大切さを訴えている。

彼女の元気の源は「全ての子どもに教育を！この世界が変わるためには私が主役だ！」の信念にあるという。目が輝いていた。彼女の信念は私の心にズシンとくるものがあった。



Kobe Menettes

Declared March 10・1965

ホームヘルパー養成講座

尾上 美絵

疲れました！！3日間の実習を今日終えました。初めての場所、新しく出会う方々、知らないことだらけ、へとへとです。これといった仕事は何もできないのに。

いま神戸YMCAで介護の勉強をしています。「ホームヘルパー養成研修2級課程」の受講生として。養成講座は、61時間のYでの講義、42時間の福祉交流センター等での演習、30時間の施設と訪問の実習で成り、5月から10月までの半年間にわたります。久しぶりに学生気分楽しんでま〜す…なんてとんでもない！まさに悪戦苦闘中。

もともと勉強したいと思ったきっかけは、今は他界した父や伯父の闘病生活でした。もっとちゃんと介護してあげたかったという悔いがあったのです。その「介護」には、どちらかという到着替えや食事の介助など技術的なものがイメージにありました。でもこの講座の中で得たものは、介護に大切なのは「こころ」だということ。もちろん技術もたくさん学んでいますが、どの先生も講義や演習の中で介護される人の「こころ」に寄り添うことを私たち受講生に教えてくださいます。私は実習を経てさらにそれを実感するようになりました。

今回の施設実習では、特別養護老人ホームに行きました。若い職員の方々は重労働なのに笑顔で明るくがんばっておられ、頭が下がりました。比較のお元気な利用者の方々とはいろいろとお話をする機会がありました。認知症を患っておられる方が多いのでお話の内容がわからないこともありました。それでも私のような一実習生に対して、「ありがとう」「お世話になります」と言ってくれたり、言葉が出なくてもお礼に手をあわせてくれたり、目を合わせると微笑んでくれたりしました。それはとても尊いことに思えました。利用者の方々は健康に問題があってもホームにいらっしゃるのでお辛いことも少なくないと察します。それと表現するのも難しい方もあります。それでも、ただ謙虚に感謝のこころを持ちそれを私たちに伝えてくださるのです。

たった半年の講義や実習で何がわかるものか、仕事はきれいごとではすまないよと先輩がたにはお叱りを受けそうですが、私にとっては貴重

な経験の連続です。

講義や演習を指導してくださる先生がた、実習先施設のスタッフのみなさま、人生の大先輩の利用者のみなさま、ありがとうございます！そしてこんな機会を与えてくださった神様、ありがとうございます！

9月8日(土)六甲部会メネット・アワーご案内



時間：午前11時30分～午後12時30分

受付午前11時15分

場所：ホテル竹園芦屋3F「コスモスの間」

会費：1000円（昼食代として）

内容：①「東日本大震災 希望の光を未来へ」

DVD視聴・昼食

②講演「東日本大震災復興支援・神戸 Y MCA の取り組み」

講師 松田康之 西神戸 YMCA 保育園
園長（松田園長は、東日本大震災被災地の子ども達を招いたキャンプを担当し復興支援のため被災地支援を実施されました）

9月11日(火)メネットナイトご案内

ゲストスピーカー 日本画家・志村 正氏

描き続けて45年・・・芸術で何ができるか

